

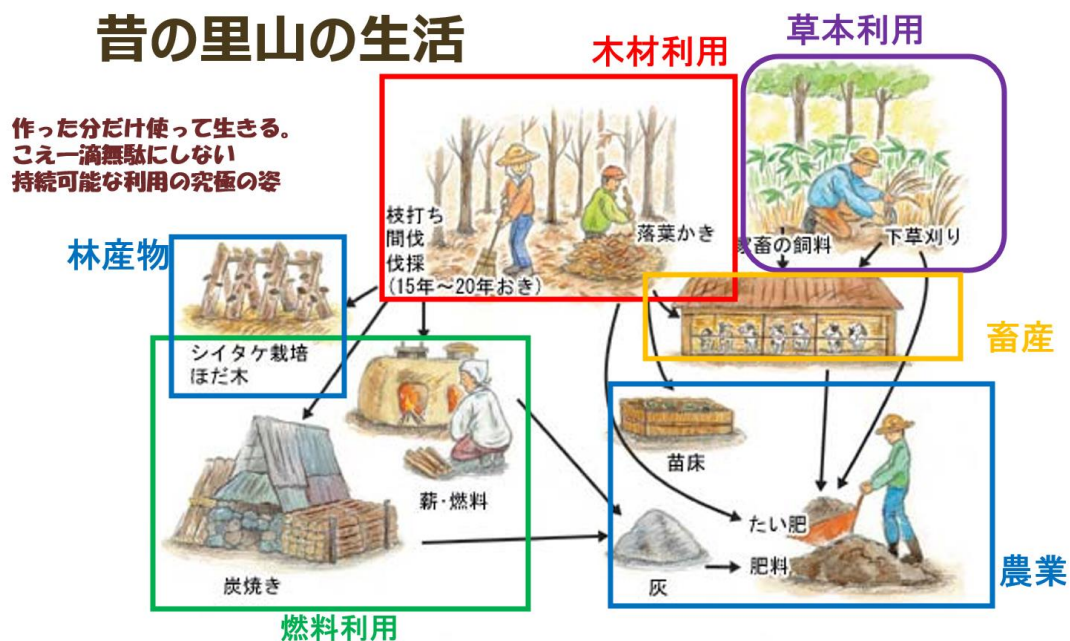
持続可能な中山間地域の形成に向けて～NESTの挑戦～



近年、中山間地域の過疎・高齢化は深刻であり、30年後には、このままの人口減少率が止まらなると人口が0になる地域も出てきておかしくない状況である。

そのため、今後、農村に人がいなくなれば、所有者不明の林地、農地、空き家だらけとなり、管理できなくなってしまうだろう。

### 昔の里山の生活



本来、里山は、上図のように森の木を燃料やシイタケのほだ木として使い、その灰も農業の肥料として利用し、集落の下草や落ち葉は、家畜の飼料となり、落ち葉や下草は、家畜のし尿とともに、苗床やたい肥として活用された。まさに、肥1滴無駄にしない究極の持続可能な暮らしが成立していた。しかし、現在、これらの里山の循環

は失われ、図の中の□で囲まれた産業は、それぞれ分業化され、木材は林業に、そして、しいたけは工場で作られ、燃料は化石燃料にとってかわられ、家畜の飼料は海外から輸入し、肥料も化学合成されたものが使われている。効率や利便性が優先され、昔の里山の持続可能な暮らしは失われてしまったが、このような暮らしの在り方は、化石燃料の使用や生物多様性の喪失が深刻な現代において、もっと見直されるべきだろう。

そこで NEST（未来里山技術機構）は、“懐かしい未来の実現”をビジョンに掲げ、未来の技術で懐かしい里山の持続可能な暮らしを現代に取り戻したいと考えている。具体的には山の森林を活用した化石燃料 0 のエネルギーを用いた農業ハウスや古民家の運用、そして、森林や農村の自然資本を活用したサステイナブルなローカルベンチャーの群れを育てることで、中山間地域に雇用を創出し、人口減少を食い止めたい。本講演では、過疎・高齢化に苦しんでいる中山間地域の課題に取り組むことが、CO<sub>2</sub>削減やネイチャーポジティブを推進することにどのように貢献するのか、ISO14001を取得している、環境保全を推進したい、あるいは、地域の課題に貢献したいと考えている企業の皆様が、今後どのように身近な地域で CSR 事業を展開できるのか、そのヒントについてご紹介したい。